

## 京浜市場愛知県野菜連絡会が2025年秋冬作に向けて販売反省会を開催

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2025年7月8日（火）にAlice aqua garden 品川（東京都品川区）において、京浜市場愛知県野菜連絡会（構成員：京浜地域の青果卸売会社28社、以下「野菜連絡会」という。）の秋冬野菜販売反省会（以下「反省会」という。）が開催されました。

### 1 2024年度の秋冬野菜の実績

J Aあいち経済連の京浜・関東市場における秋冬野菜の取扱実績が報告され、数量67,850 t（前年比80%）、金額275.9億円（同118%）となりました。品目別数量の第1位はキャベツで40,454 t（同78%）、金額69.9億円（同168%）、以下トマト7,737 t（同88%）、金額34.6億円（同102%）、ミニトマト4,976 t（同89%）、金額40.9億円（同106%）、ブロッコリー4,058 t（同77%）、金額14.7億円（同108%）、おおば1,924 t（同99%）、金額58.5億円（同109%）でした。



会議には会員会社、J Aあいち経済連、県の担当者が出席

### 2 キャベツ、トマト・ミニトマト、ブロッコリーの情勢報告及び本県産地への要望

反省会では、会員から本県の主要品目について情勢報告及び本県産地への要望がありました。

#### （1）キャベツ

加工業務用への供給不足が出荷開始の10月から翌年3月まで続き、単価高の影響で、1月には輸入量が前年同月比で急増したことが報告されました。要望では、「再生産価格を維持するための数値に基づく相場形成」と「経済連、J A、市場が一体となった本県産キャベツの需要拡大に繋がる取組の推進」が出されました。

#### （2）トマト・ミニトマト

作付面積は、全国的には微減から横ばい傾向ですが、量販店ではミニトマトの売場の比率が高くなっており、熊本県では過去2年でトマトからミニトマトへの転作が20ha程度行われたことが報告されました。要望では、出荷量に関しては「安定供給」と「精度の高い情報提供」、出荷物に関しては「本県産の食味の良さや品質の高さの維持・向上」が出されました。

#### （3）ブロッコリー

2026年度から指定野菜に追加されることが決まり、また、国産志向も高くなっていることから、量販店からの引き合いが強くなっていることが報告されました。要望では、「安定供給」と「精度の高い出荷量の情報提供」が出されました。

本県の2024年度の秋冬野菜は、他の競合産地と同様、天候不順によっていずれの品目も出荷量は大きく減少しました。今夏も全国的に猛暑が予想されていますが、京浜市場では本県の産地に対する安定した品質と供給への期待が高いという印象を受けました。